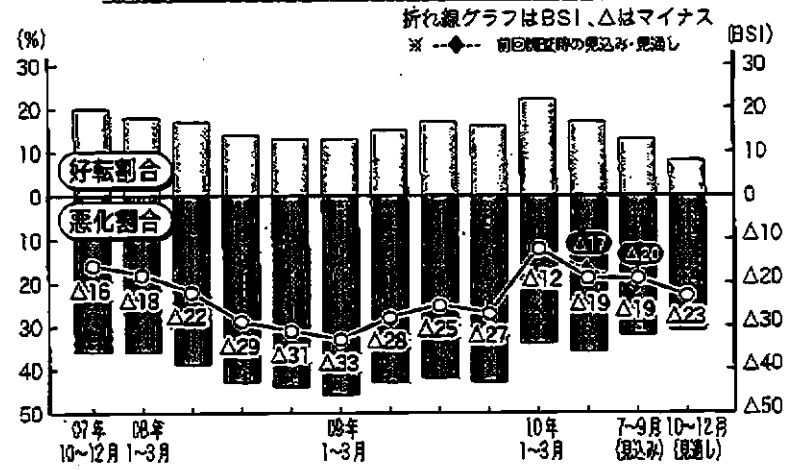
2010年 9月29日 8時30分 長崎新聞 NO. 3458 P. 2

4～6月期の県内企業景況

業況判断BSIの推移



長崎経済研究所調べ

長崎経済研究所調べ

業況判断7ポイント低下

先行きも悪化の傾向

十八銀行系のシンクタンク、長崎経済研究所(長崎市)がまとめた2010年4～6月期の県内企業の景況調査によると、「好転」から「悪化」を引いた企業割合を示す業況判断BSIはマイナス19で、前期(1～3月期)を7ポイント下回った。先行きの10～12月期はマイナス23の見通しで、景況感は悪化の傾向。

エコカー補助金制度など政府の経済対策が一部終了したり、製造業関連では円高への警戒感が根強く、好転材料に乏しい。先行きについて「好転」と答えた企業割合は過去3年で最低の8%にとどまった。

製造業の4～6月期はマイナス21(前期マイナス7)と悪化したが、電気機械や食料品のプラス予想を受け、7～9月期はマイナス14)で、先行きの期はマイナス26化。堅調だった補助金制度の終大幅な低下も予建設や運輸・ほとんどの業種受注の不振」を

15、10～12月期はマイナス11の見通しで緩やかながら持ち直しの傾向にある。

一方、非製造業は4～6月期マイナス18(同マイナは8月に492ートなどを行い、が答えた(回答%)。

題点に挙げる企業も高かった。

調査は、県内に四半期ごとに

志佐商工振興会

個店の魅力上げ 商店街を活性化

県内初、研修事業始まる

繁盛店づくりのポイントが示された全体研修＝松浦市、松浦商工会議所

松浦市志佐町の志佐商工振興会(古賀一郎会長)は27日夜、同町の松浦商工会議所で、個店の魅力づくりを通して商店街全体の活性化を図る「個店経営研修事業」の全体研修を開いた。

同事業は、日本商工会議所などが出資、設立した全国商店街支援センター(東京)が、中小企業庁の補助を受け昨年度から実施。同センターによると、昨年度は全国の商店街20カ所で行い、多くが売上高や来客数が増えたという。本年度は40カ所に拡大し、本県では志佐商工振興会が初めて参加した。

この日は、同振興会会員ら約30人が出席。コンサルタント会社「クオールエイド」(佐賀県武雄市)の武雄信夫社長が商店街を取り巻く現状を整理し、商品陳列の工夫やテーブル、いすの設置といった繁盛店づくりのポイントを述べた。

今後、店づくりについて武雄社長から直接指導を受ける「臨店研修」を同振興会会員の6店で実施。その成果を来年2月の全体研修で共有し、商店街全体の浮揚を目指す。(原口司)

山本さん(AIGスター)優勝

電話応対で県コンクール

長崎

電話応対の技量を競う第53回電話応対コンクール県大会が28日、長崎市内のホテルであり、AIGスター生命保険の山本美生さんが優勝した。

日本電信電話ユーザ協会長崎支部(高田浩司支部長)主催。同支部会員のホテルや病院、運送会社など20事業所から32人競技は、人と間違えら と健診センと健診センた苦情に、という設定出場者はきって謝罪した原因や分以内でアナウン子や言葉遣を基準に審した。

優勝した月に愛媛県に出場するほかの入り。

▽準優勝 IGスター位＝濱崎真 ホテル佐世 大塚加奈子 ン杉山真 ▽審査員特 恵(五島自

坊ちゃん健診センター

健診センターの職員になりきり、苦情に電話で答える出場者(右)＝長崎市宝町、ベストウェスタンプレミアホテル長崎